

報告 2

平成 27 年 3 月 20 日 公共施設再生推進審議会

平成26年度

先導的官民連携支援事業

PPP／PFIによる施設の長寿命化と
公園の一体的管理事業調査
報告書【抜粋】

平成 27 年 2 月

習 志 野 市

【はじめに】

1. 調査の目的

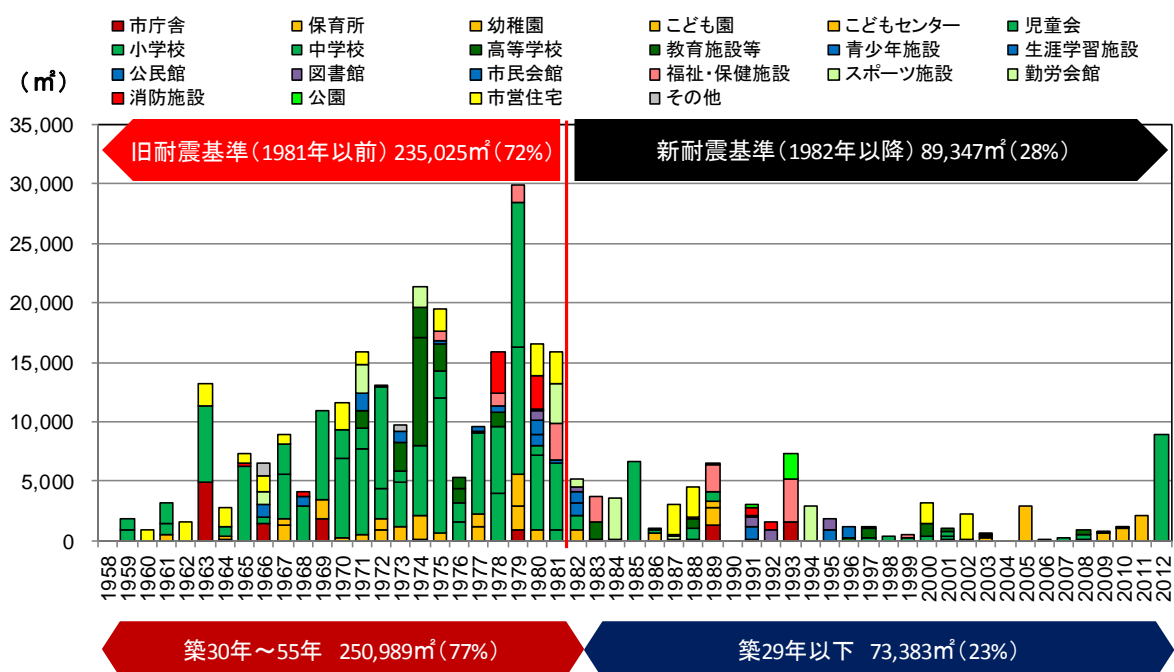
高度経済成長期に大量に整備してきた公共施設は、一様に老朽化が進み、今後、耐震改修や建替えが必要になってくる。一方、少子高齢化対策など、都市の抱える課題は多く、財政状況は厳しさを増す一方である。

このような状況の中、真に必要な公共施設を精査し、整備あるいは更新維持を的確に進めるため、前例に囚われることなく、官と民が連携して事業に取り組むことで、少ない財政負担で、必要とされる事業も含めたまちづくりを行うことができると考えられる。

本調査は、本市の中央公園に隣接する老朽化した公共施設を更新し、中央公園と一体的に整備・運営するための手法、あるいは、周辺1km圏内に立地する公共施設機能の集約・統合について検討することを併せて取り組み、地域の価値を高めるエリアづくりを推進することを目的としている。

本調査成果を踏まえ、エリアの魅力や地域の価値を高め、公共施設の老朽化問題への対策と快適なまちづくりの両立を目指している。

習志野市の公共施設の現状



2. 平成25年度（2013年度）調査との関連

本調査の位置付けは、平成25年度（2013年度）に実施した「習志野市大久保地区公共施設再生基本構想（素案）」を踏まえ、大久保公民館・市民会館、大久保図書館、勤労会館のそれぞれの施設と公園のあり方を、市民主体で議論し、取りまとめることである。

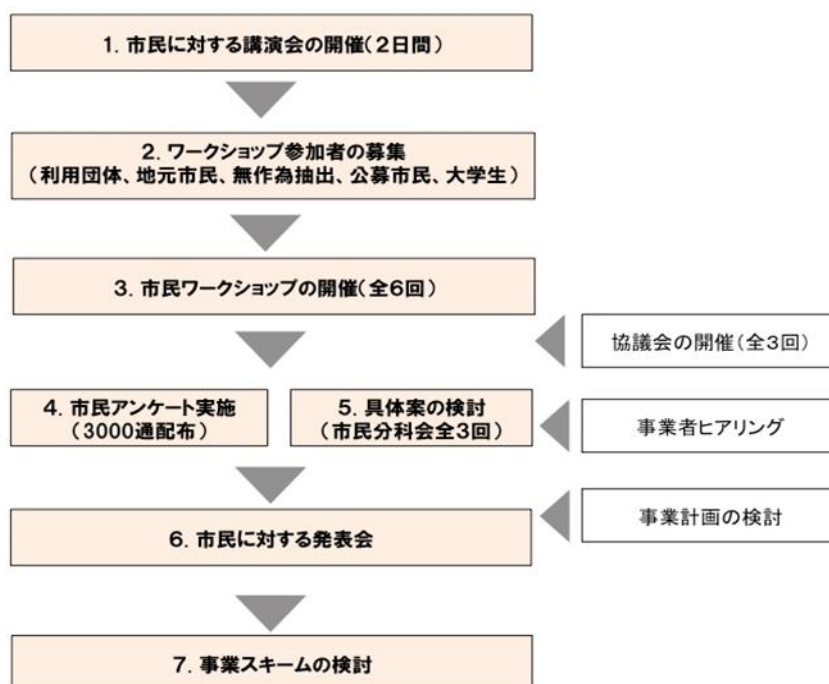
平成25年度（2013年度）の調査は、既存施設機能を集約するにあたって、更新後の施設規模等を中心として検討したものである。本調査では上記の調査に加え、市の生涯学習の拠点として、公民館・図書館という社会教育の中核を担う部分は、市が責任をもって整備したうえで、将来を見据えた魅力ある施設とするために、どのような機能を持つ公共施設が望ましいかを検討し、その機能を既存施設機能にどのように融合させることができるのか等について調査検討を行った。そして、実現に向けての検討として、官民連携のメリットを生かし、公共性を踏まえた収益性や事業性の整理、民間投資手法の検討を行った。

3. 調査の進め方

ワークショップの実施やアンケート調査といった、市民協働のプロセスを中心に、事業者ヒアリングや事業計画の検討を行い、最後に、事業収支と事業スキームの検討を行った。

市民協働のプロセスは、図に示すように、講演会を行い、幅広い年齢層の市民の注目を集めてからワークショップ参加者を募集し、ワークショップを開催し、ワークショップで出たアイデアに基づいた市民アンケートを実施した。合わせて、ワークショップ参加者の有志で分科会を開催し、具体的な事業内容の検討を進めた。1月14日にワークショップに参加した市民にワークショップで出たアイデアやプランについて、本事業の対象施設のひとつである市民会館において、広く市民等に対して発表してもらうという一連のプロセスを進めた。

検討フロー



4. 専門家協議会の設置

専門家からの意見聴取及び相談として、受託事業者において協議会を設置し、検討内容について、それぞれの立場から客観的に議論を行った。協議会開催日程と内容、協議会委員のメンバーは下の表に示す通りである。

協議会開催日程

協議会	日時	内容
第1回	平成26年(2014年) 10月31日(金) 14:00~17:00	1. 敷地視察 2. 議長、副議長の選出 3. これまでの検討経緯 4. 本年度の取り組み内容 5. 本計画に対する意見交換
第2回	平成26年(2014年) 12月22日(金) 13:00~15:00	1. 講演会、ワークショップの報告 2. アンケート内容の報告 3. 事業計画(用途、プラン)について 4. 公園の利用計画について 5. その他、本計画に対する意見交換
第3回	平成27年(2015年) 1月19日(月) 17:00~20:00	1. 発表会の報告 2. アンケート結果の報告 3. リノベーションか新築かの検討 4. 事業スキームについて 5. その他、本計画に対する意見交換

先導的官民連携支援事業協議会委員

区分	委員氏名	所属
合意形成	朝倉 暁生	東邦大学理学部生命圏環境学科 准教授
広報	奥田 早希子	積水化学工業株式会社 環境・ライフカンパニー バリューチェーン事業推進部 マーケティンググループ
移動手手段	古波津 勝彦	株式会社KAI 代表取締役
法令・出資	佐々木 昌二	一般財団法人 民間都市開発推進機構 都市研究センター副所長兼研究理事
建築	田島 則行	千葉工業大学工学部建築都市環境学科 助教
計画	馬場 正尊	株式会社オープン・エー 代表取締役
会計士	山本 享兵	有限責任監査法人トーマツ パブリックセクター部

【市民協働】

1. 講演会

ワークショップの開催に先立ち、昨年までの公共施設再生計画の策定における説明会への参加者が少なかった若い世代や子育て世代にも参加を促すために、これらの世代に関心の高いテーマを設定し、講演会を開催した。

第1回は、現役で働いている世代からも注目を得ることを目指して、NPO 法人グリーンズ代表の鈴木菜央氏に「働き方と地域の未来」についての講演を依頼し、市民が主体的に自分の地域を作っていくことの大切さを語っていただいた。第2回は、練馬区でプレーパークの運営を行っている、NPO 法人あそびっこネットワークの中川奈緒美氏に講演を依頼し、子供のあそび場の大切さと、何人かの母親の活動でそれが可能となった事例について語っていただいた。

アンケートによると、第1回講演会の参加者は、市内在住者では60代以上が多いが、40代以下の参加も3分の1程度はあった。第2回講演会は、市内在住者の30代、40代、50代、60代、70代～が、約20%の参加割合で、各世代がバランスよく参加した結果となった。

第2回は、一方的なインプットに留まらず、参加者同士のコミュニケーションを促進する座席配置とした。

◇第1回講演会「働き方と地域の未来」

平成26年（2014年）10月22日（水）18：30～20：30

ゲスト：鈴木菜央 氏（NPO法人グリーンズ代表）



◇第2回講演会「公園遊びでの子育てと地域の未来」

平成26年（2014年）10月25日（土）15：30～17：30

ゲスト：中川奈緒美 氏（NPO法人あそびっこネットワーク代表理事）



2. ワークショップ

(1) ワークショップ参加者の募集

参加者は、利用者代表、地元市民、公募市民、大学生、市職員、及び無作為抽出で選出された市民から成り、水曜日グループに24名、土曜日グループに23名の、のべ47名となった。



(2) ワークショップ開催日程

市民ワークショップは、多様な立場の市民が参加可能となるように、同じテーマで曜日と時間帯を変え3回ずつ行い、計6回実施した。

【第1回】

- ① 平成26年(2014年)10月29日(水) 10:00~12:00
(会場: 大久保公民館)
- ② 平成26年(2014年)11月1日(土) 14:00~16:00
(会場: 勤労会館)

【第2回】

- ① 平成26年(2014年)11月5日(水) 10:00~12:00
(会場: 習志野市役所仮庁舎)
- ② 平成26年(2014年)11月8日(土) 14:00~16:00
(会場: 勤労会館)

【第3回】

- ① 平成26年(2014年)11月19日(水) 10:00~12:00
(会場:大久保公民館)
- ② 平成26年(2014年)11月22日(土) 14:00~16:00
(会場:生涯学習地区センターゆうゆう館)

(3) ワークショップの論点

ワークショップを進めるにあたり、図中の3つの論点で議論を行った。

ワークショップの論点



(4) ワークショップの実施内容

① 前提となる条件

参加者がワークショップを開始する前に、前提となる情報や条件として「公共施設再生計画」及び「大久保地区公共施設再生基本構想(素案)」の概要を市より伝えた。

② ワークショップの主旨と進め方

今回のワークショップは、大久保地区公共施設再生基本構想(素案)に基づき、市民が、大久保地区の公共施設についてどんな場所にしたいか、どんな機能が欲しいか、ここでどんなことをしたいか等のアイデアを、図面や模型を見ながら考える場になることを説明。

③ ワークショップ

大きく下記のテーマで、各回前半に「イメージ(どんな場がほしいか等)」、後半に「具体案」について話し合いを行った。意見出し、整理は模造紙に付箋を貼って発表用資料として可視化していく方法を用いた。グループは水曜、土曜に各5グループの計10グループとなった。

- 第1回テーマ:公民館
- 第2回テーマ:市民会館・図書館
- 第3回テーマ:勤労会館・中央公園

④ 発表

全グループが発表用資料を全員に見せながらどんな意見が出ていたかを発表し、ワーク

ショップで出たアイデアを全員で共有した。

(5) ワークショップの主な意見

ワークショップで出た主な意見としては以下の通りである。詳細については付録のワークショップ報告書に記載している。

	イメージ	具体案
公民館	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる世代にとって使いやすい・魅力的 クリエイティブな場 文化の発信地 食事や飲み物が買える 夜も使える・若い人が夜集まれる まちづくり・コミュニティ形成に繋がる 障がい者の人も参加できるような場 学生やビジネスマンの勉強や仕事に便利 誰でもビジネスができる・学べる 公園でご飯が食べられる 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップができて地域の課題を様々な立場の人が相談できる場所 話しながら学習できるスペース カフェ・喫茶店 弁当・惣菜 ケータリングでパーティー利用 バー・居酒屋 習志野/商店街のアンテナショップ 本や文具、製本サービスがある 工作室 日・週替わりのお店 市民(学生)向けチャレンジショップ 作品の販売ができる(レンタル BOX) 障がい者の方が働くことが可能なカフェ
市民会館	<ul style="list-style-type: none"> イベントスペース 郷土史を伝承したい 誰でも気軽に利用できる 多様性がある 用途に応じてフレキシブルに変化 音楽の街をアピールできる 文化・芸術の発信 ライブハウス・コンサートホール 多目的なスペース フラットなスペース 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽教室 楽器練習室・スタジオ 美術館・博物館 郷土資料館 可動式ステージ フラットな床 多目的スペース
図書館	<ul style="list-style-type: none"> 現役社会人が来なくなる 学生が来なくなる 学生の専門書がある 誰でも使いやすい(子ども、大人、障がい者) 親子で安心して楽しめる ママ同士のコミュニティ形成 公園で本が読める 話しながら勉強できる 子育てに必要な情報が手に入る 	<ul style="list-style-type: none"> 飲食ができるコーナー 民間の経営ノウハウの導入 可変性のある子どもコーナー DVD も借りられるメディアセンター 子どもの秘密基地 児童書の充実 静かなスペース にぎやかなスペース

<p>勤労会館</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 料理ができる・公園で食べられる • 老若男女来たくなる・こられる • 気軽にいつでも来られる • スポーツでリフレッシュできる • 子どもがのびのび遊べる • コミュニティ形成 • 体を動かす場所 	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツジム • 体育館 • ランニングステーション • カフェラウンジ • 子ども専用室 • スポーツ教室 • 公園と連動した調理室
<p>中央公園</p>	<ul style="list-style-type: none"> • あらゆる人が楽しめる • 用途を決めず、多目的に • 緑が多い • 飲み物や軽食が買える • 野球場だけではもったいない • 子どもが安全に遊べるコーナー • デッキ • イベント広場 • 運動場ではなく公園 • 公園・施設が一体的につながる 	<ul style="list-style-type: none"> • バーベキュー施設 • 移動の飲食販売(ビアガーデン等) • プレーパーク(子どもが外遊びできる場所) • シンボルツリー • ママと子どもがピクニックできるような場所 • 宿泊できる場所・キャンプ場 • 自然を楽しめる緑 • 駐車場を有料化する

3. 無作為抽出意向調査 【抜粋】

(1) アンケート目的

大久保地区公共施設再生事業において、平成26年（2014年）10月から11月に市民約40名と行ったワークショップの結果に基づき、ワークショップで出てきたアイデアについてより多くの市民の意見を募ることを目的とした。

アンケートの結果は、大久保地区公共施設再生基本構想の検討のために利用する。

(2) アンケートの概要

調査名称：「習志野」の地域の未来を考えるプロジェクトアンケート

調査期間：平成26年（2014年）12月8日（月）～平成26年（2014年）12月22日（月）

調査方法：年代別回答率を考慮して、10歳階層ごとに無作為抽出で3,000人の市民に郵送

配布人数：3,000人

※10代は高校生以上に限定。

回答人数：714人

回答率：23.8%

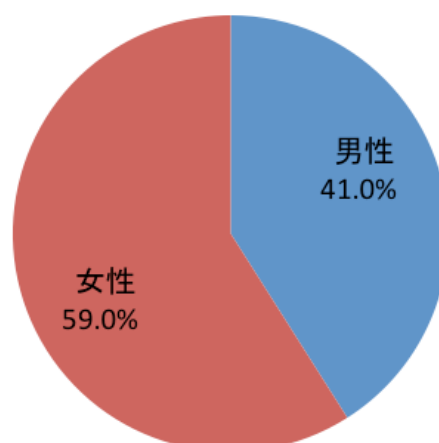
アンケートの配布数、回答率、及び回答数

年代	配布数	割合	回答率	回答数	割合
10代	167	5.6%	13.2%	22	3.1%
20代	741	24.7%	15.5%	115	16.1%
30代	617	20.6%	22.6%	139	19.5%
40代	495	16.5%	23.2%	115	16.1%
50代	376	12.5%	28.5%	107	15.0%
60代	316	10.5%	38.3%	121	17.0%
70代以上	288	9.6%	32.6%	94	13.2%

(3) 集計結果概要

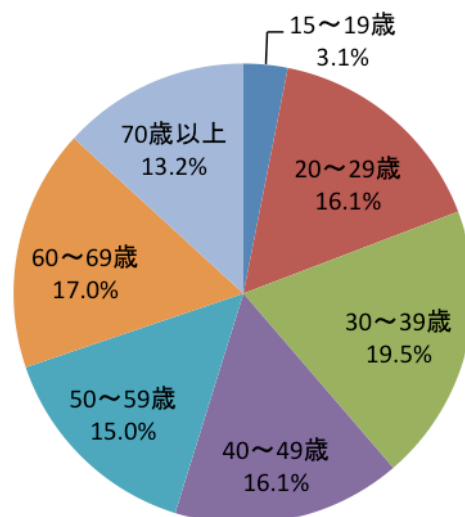
質問1. あなたの性別をお答えください。(回答数1つ)

項目	回答数	回答割合
男性	251	41.0%
女性	361	59.0%
合計	612	100%



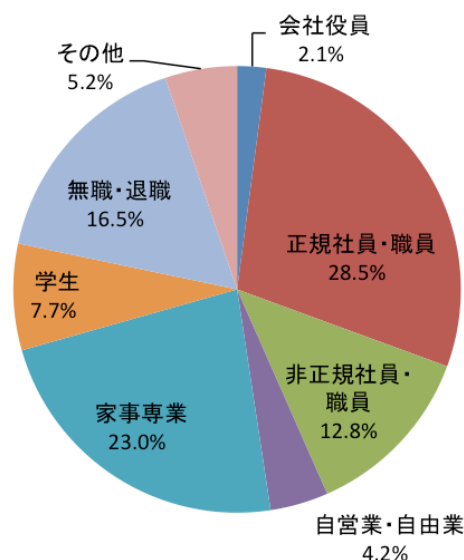
質問2. あなたの年齢をお答えください。(回答数1つ)

項目	回答数	回答割合
15～19歳	22	3.1%
20～29歳	115	16.1%
30～39歳	139	19.5%
40～49歳	115	16.1%
50～59歳	107	15.0%
60～69歳	121	17.0%
70歳以上	94	13.2%
合計	713	100%



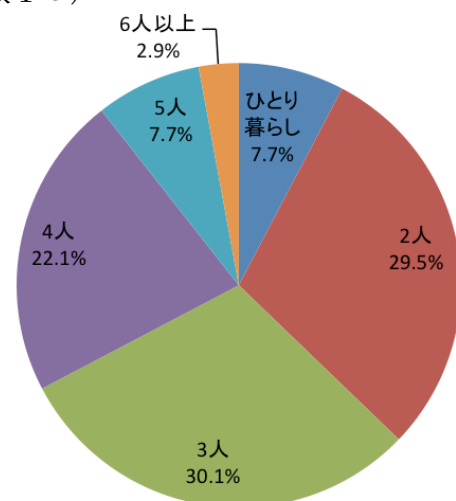
質問3. あなたの職業は次のどれですか。(回答数1つ)

項目	回答数	回答割合
会社役員	15	2.1%
正規社員・職員	202	28.5%
非正規社員・職員	91	12.8%
自営業・自由業	30	4.2%
家事専業	163	23.0%
学生	55	7.7%
無職・退職	117	16.5%
その他	37	5.2%
合計	710	100%



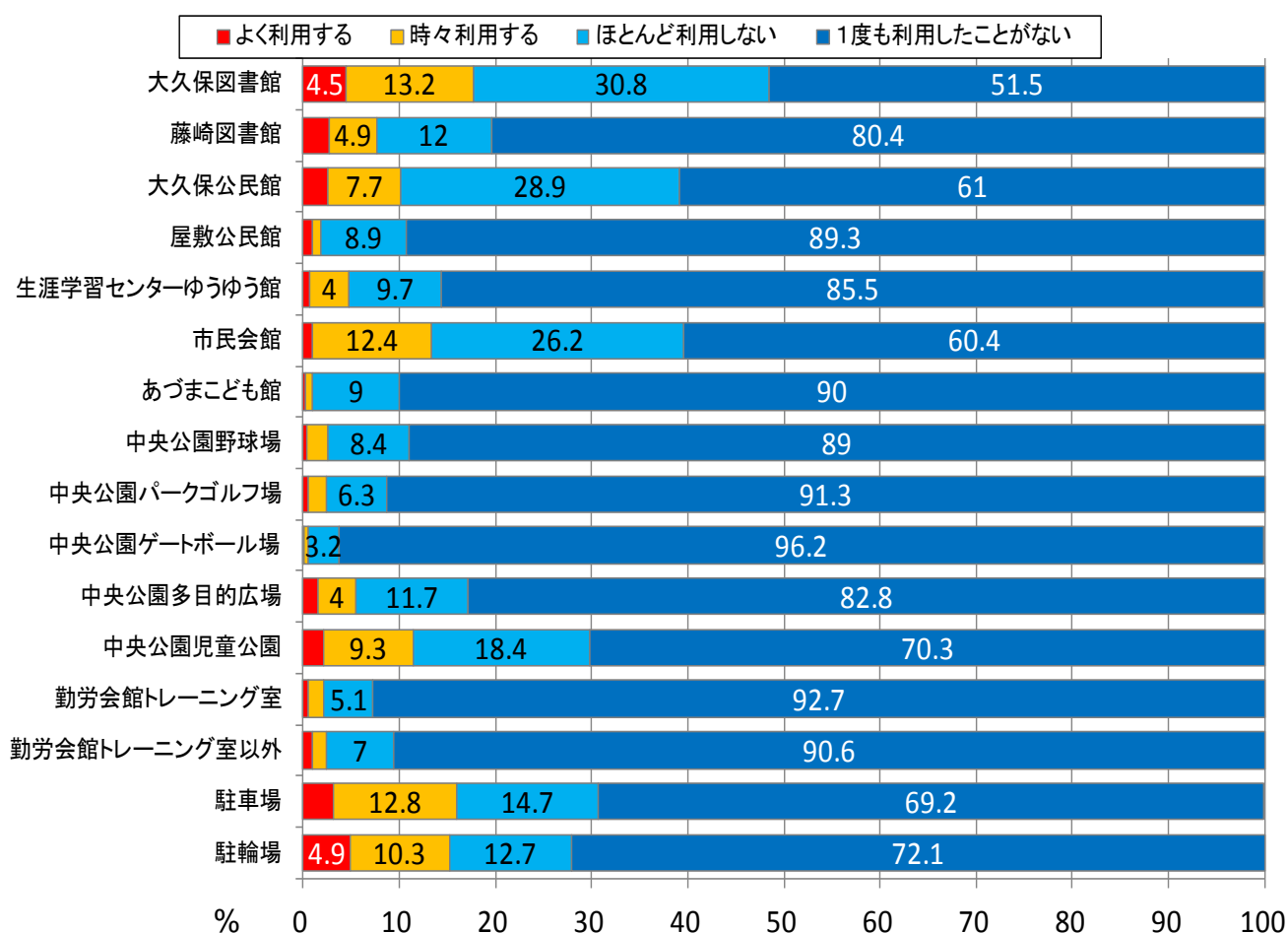
質問4. あなたを含め、同居のご家族は何人ですか。(回答数1つ)

項目	回答数	回答割合
ひとり暮らし	55	7.7%
2人	211	29.5%
3人	215	30.1%
4人	158	22.1%
5人	55	7.7%
6人以上	21	2.9%
合計	715	100%



質問9. あなたは、下記の公共施設をどのくらい利用していますか？

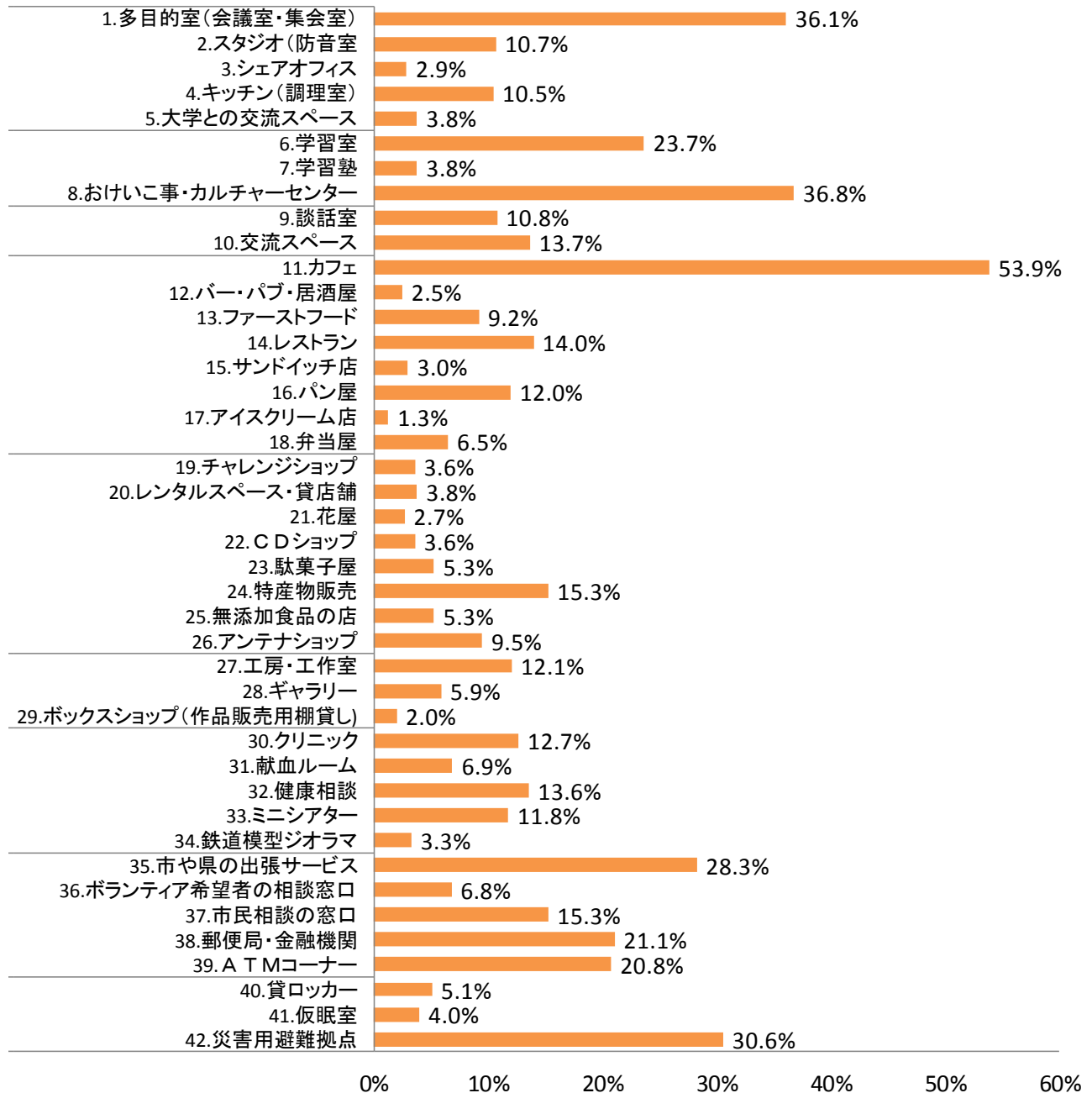
項目		よく利用する	時々利用する	ほとんど利用しない	1度も利用したことがない
大久保図書館		4.5%	13.2%	30.8%	51.5%
藤崎図書館		2.7%	4.9%	12%	80.4%
大久保公民館		2.5%	7.7%	28.9%	61%
屋敷公民館		0.9%	0.9%	8.9%	89.3%
生涯学習地区センター ゆうゆう館		0.7%	4%	9.7%	85.5%
市民会館		1%	12.4%	26.2%	60.4%
あづまこども館		0.3%	0.7%	9%	90%
中央公園	野球場	0.4%	2.2%	8.4%	89%
	パークゴルフ場	0.6%	1.8%	6.3%	91.3%
	ゲートボール場	0.1%	0.4%	3.2%	96.2%
	多目的広場	1.5%	4%	11.7%	82.8%
	児童公園	2.1%	9.3%	18.4%	70.3%
勤労会館	トレーニング室	0.6%	1.6%	5.1%	92.7%
	トレーニング室以外	0.9%	1.5%	7%	90.6%
駐車場		3.2%	12.8%	14.7%	69.2%
駐輪場		4.9%	10.3%	12.7%	72.1%



質問10. 公民館を利用するときに、公民館の中や近くにあったらいいと思う用途はどれですか？
(回答数7つ)

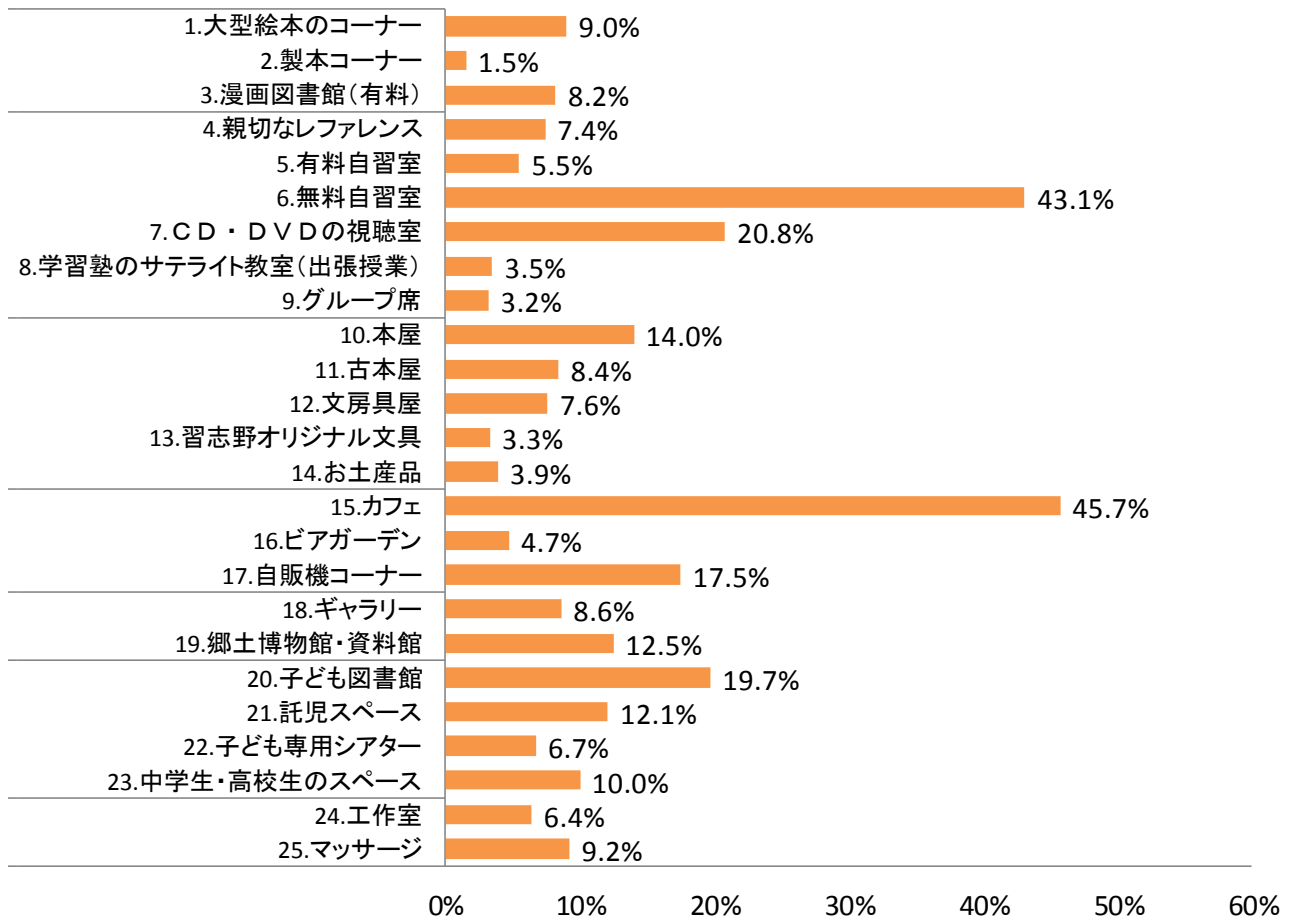
分類	項目	回答数	回答割合
会議室系	1.多目的室(会議室・集会室)	250	36.1%
	2.スタジオ(防音室)	74	10.7%
	3.シェアオフィス	20	2.9%
	4.キッチン(調理室)	73	10.5%
	5.大学との交流スペース	26	3.8%
学習・教室系	6.学習室	164	23.7%
	7.学習塾	26	3.8%
	8.おけいこ事・カルチャーセンター	255	36.8%
談話・対話系	9.談話室	75	10.8%
	10.交流スペース	95	13.7%
飲食系	11.カフェ	373	53.9%
	12.バー・パブ・居酒屋	17	2.5%
	13.ファーストフード	64	9.2%
	14.レストラン	97	14.0%
	15.サンドイッチ店	21	3.0%
	16.パン屋	83	12.0%
	17.アイスクリーム店	9	1.3%
	18.弁当屋	45	6.5%
物販店舗系	19.チャレンジショップ	25	3.6%
	20.レンタルスペース・貸店舗	26	3.8%
	21.花屋	19	2.7%
	22.CDショップ	25	3.6%
	23.駄菓子屋	37	5.3%
	24.特産物販売	106	15.3%
	25.無添加食品の店	37	5.3%
	26.アンテナショップ	66	9.5%
ものづくり系	27.工房・工作室	84	12.1%
	28.ギャラリー	41	5.9%
	29.ボックスショップ(作品販売用棚貸し)	14	2.0%
娯楽系	30.クリニック	88	12.7%
	31.献血ルーム	48	6.9%
	32.健康相談	94	13.6%
	33.ミニシアター	82	11.8%
	34.鉄道模型ジオラマ	23	3.3%
公共サービス	35.市や県の出張サービス	196	28.3%
	36.ボランティア希望者の相談窓口	47	6.8%

	37.市民相談の窓口	106	15.3%
	38.郵便局・金融機関	146	21.1%
	39.ATMコーナー	144	20.8%
その他	40.貸ロッカー	35	5.1%
	41.仮眠室	28	4.0%
	42.災害用避難拠点	212	30.6%



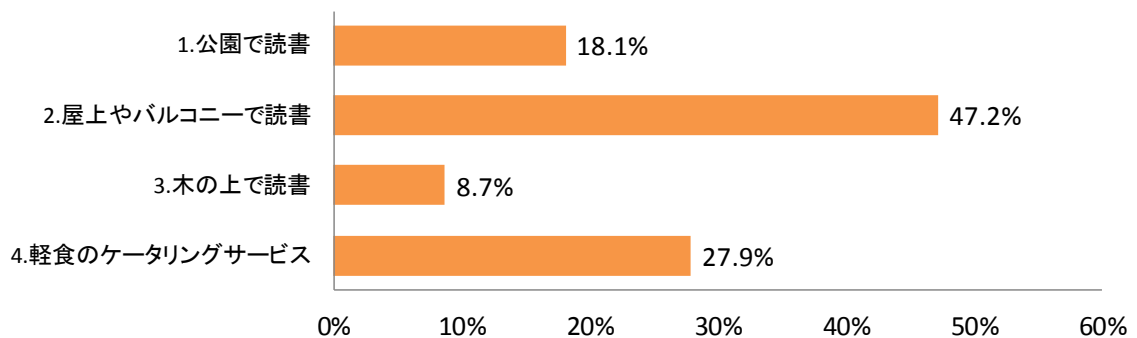
質問15. 図書館や図書館の近くにあったらいいと思う用途はどれですか？（回答数5つ）

分類	項目	回答数	回答割合
図書系	1.大型絵本のコーナー	62	9.0%
	2.製本コーナー	10	1.5%
	3.漫画図書館(有料)	56	8.2%
	4.親切なレファレンス	51	7.4%
学習系	5.有料自習室	38	5.5%
	6.無料自習室	296	43.1%
	7.CD・DVDの視聴室	143	20.8%
	8.学習塾のサテライト教室(出張授業)	24	3.5%
	9.グループ席	22	3.2%
物販系	10.本屋	96	14.0%
	11.古本屋	58	8.4%
	12.文房具屋	52	7.6%
	13.習志野オリジナル文具	23	3.3%
	14.お土産品	27	3.9%
飲食系	15.カフェ	314	45.7%
	16.ビアガーデン	32	4.7%
	17.自販機コーナー	120	17.5%
展示系	18.ギャラリー	59	8.6%
	19.郷土博物館・資料館	86	12.5%
子ども系	20.子ども図書館	135	19.7%
	21.託児スペース	83	12.1%
	22.子ども専用シアター	46	6.7%
	23.中学生・高校生のスペース	69	10.0%
その他	24.工作室	44	6.4%
	25.マッサージ	63	9.2%



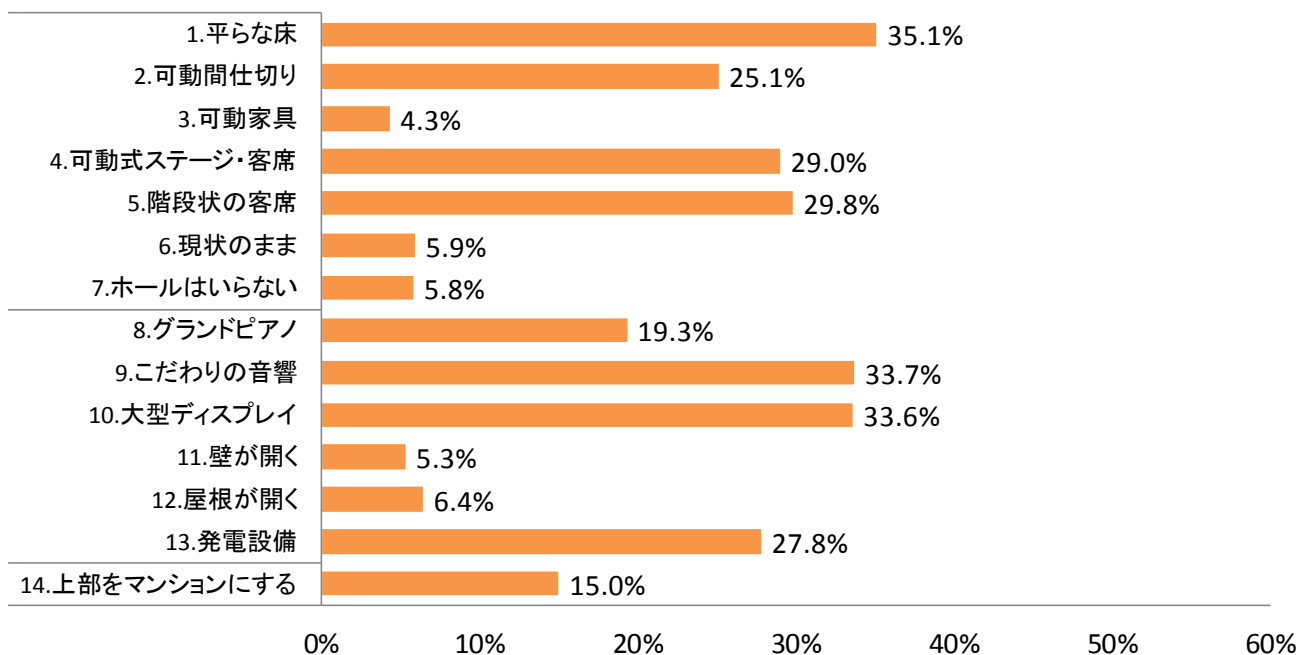
質問 1 6. 図書館と公園との連携において、あったらいいと思うものはどれですか？ (回答数 1 つ)

分類	項目	回答数	回答割合
読書系	1.公園で読書	115	18.1%
	2.屋上やバルコニーで読書	300	47.2%
	3.木の上で読書	55	8.7%
飲食系	4.軽食のケータリングサービス	177	27.9%



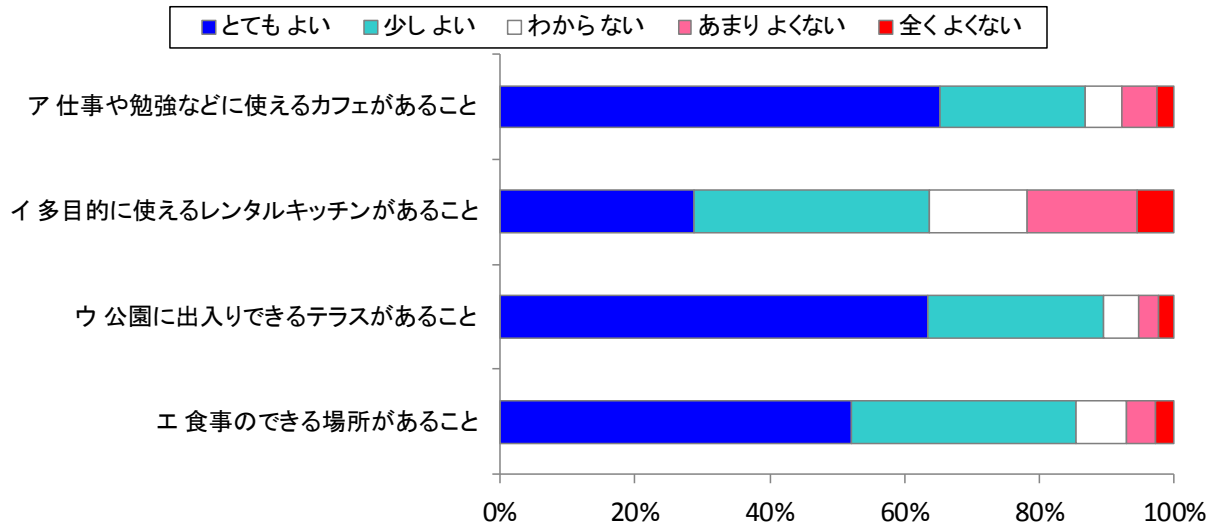
質問20. 市民会館の建物について、どのような建物であつたらいいと思いますか？（回答数3つ）

分類	項目	回答数	回答割合
ホール	1.平らな床	231	35.1%
	2.可動間仕切り	165	25.1%
	3.可動家具	28	4.3%
	4.可動式ステージ・客席	191	29.0%
	5.階段状の客席	196	29.8%
	6.現状のまま	39	5.9%
	7.ホールはいらない	38	5.8%
設備	8.グランドピアノ	127	19.3%
	9.こだわりの音響	222	33.7%
	10.大型ディスプレイ	221	33.6%
	11.壁が開く	35	5.3%
	12.屋根が開く	42	6.4%
	13.発電設備	183	27.8%
その他	14.上部をマンションにする	99	15.0%



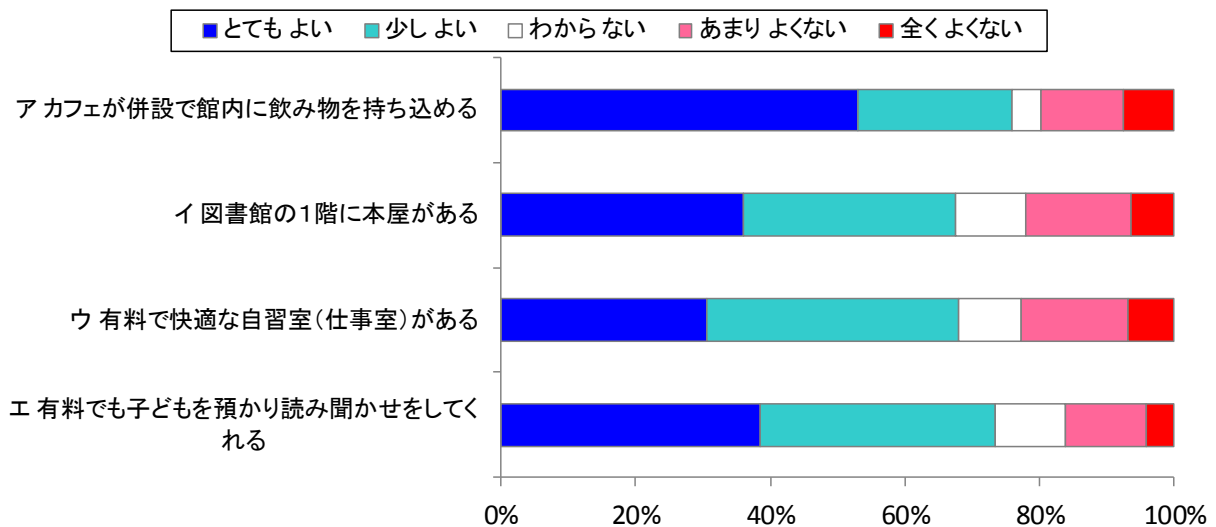
質問28. 公民館の新しい使い方や、周辺の空間イメージについて、あてはまるものを選んでください。(回答数1つ)

項目	とてもよい	少しよい	あまりよくない	全くよくない	わからない
ア 仕事や勉強などに使えるカフェがあること	65.2%	21.6%	5.2%	2.5%	5.5%
イ 多目的に使えるレンタルキッチンがあること	28.7%	35.0%	16.3%	5.6%	14.5%
ウ 公園に出入りできるテラスがあること	63.4%	26.2%	3.1%	2.3%	5.1%
エ 食事のできる場所があること	52.1%	33.4%	4.4%	2.8%	7.3%



質問29. 図書館の新しい使い方や周辺の空間イメージについて、あてはまるものを選んでください。(回答数1つ)

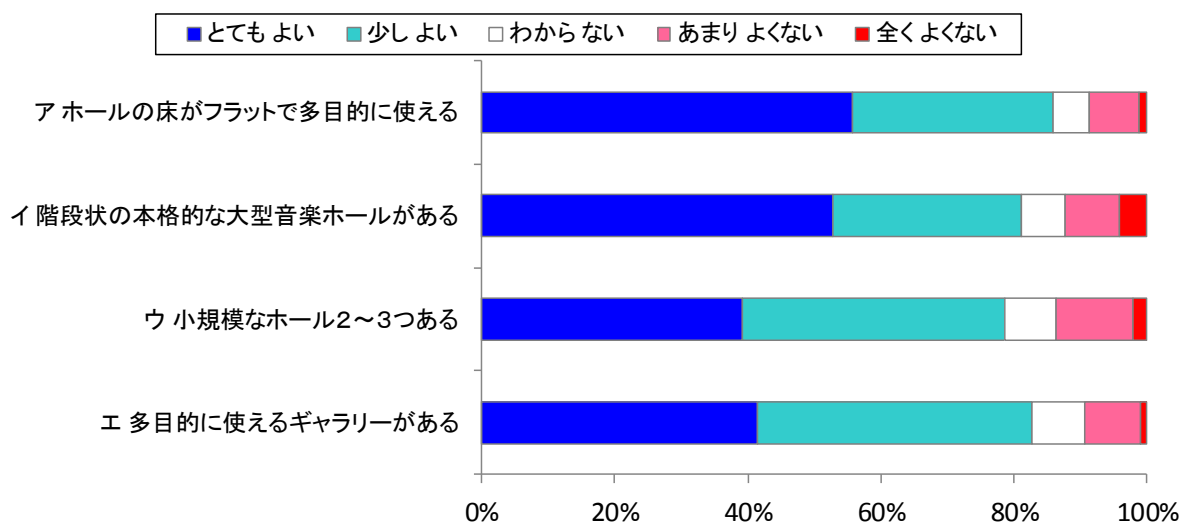
項目	とてもよい	少しよい	あまりよくない	全くよくない	わからない
ア カフェが併設で館内に飲み物を持ち込める	53.0%	22.2%	12.7%	8.1%	3.9%
イ 図書館の1階に本屋がある	36.0%	31.6%	15.6%	6.8%	10.0%
ウ 有料で快適な自習室(仕事室)がある	31.9%	36.3%	16.4%	6.8%	8.5%
エ 有料でも子どもを預かり読み聞かせをしてくれる	38.5%	35.1%	12.1%	4.1%	10.2%



質問30. 市民会館の新しい使い方や空間イメージについて、あてはまるものを選んでください。

(回答数1つ)

項目	とてもよい	少しよい	あまりよくない	全くよくない	わからない
ア ホールの床がフラットで多目的に使える	55.7%	30.2%	7.4%	1.3%	5.4%
イ 階段状の本格的な大型音楽ホールがある	52.8%	28.4%	8.3%	4.1%	6.4%
ウ 小規模なホール2～3つある	39.1%	39.4%	11.4%	2.2%	7.8%
エ 多目的に使えるギャラリーがある	41.5%	41.2%	8.4%	1.0%	7.9%



(4) アンケート結果のまとめ

公共施設の現在の利用状況においては、大久保図書館、市民会館、駐車場、駐輪場の利用が比較的多く、「よく利用する」「時々利用する」を合わせて、15～20%程度であった。公園の中では、児童公園が10%強と一番利用されていることが分かった。

付帯する用途のアイデアについてのアンケート結果は、ワークショップでも意見の多かった項目がアンケートの回答率も高い結果となった。公民館及び図書館での用途としては、「カフェ」が最も多く、飲み物でも飲みながら落ち着いてゆっくりと滞在する場所を求めていることが分かる。

公民館では、おけいこ事・カルチャーセンター、多目的室(会議室・集会室)が多く、図書館では、自習室、子ども図書館が、市民会館では、多目的スペース、イベントホール、映画館が多く、勤労会館では、フィットネスクラブ、各種スポーツ教室、健康食レストランの希望が多かった。公園との連携では、マルシェ、飲食できるテラス、飲食物の販売が多く、シャワー&着替えスペースの要望も多かった。

全体的に、各建物が連携していること、多目的な使い方ができること、公園と一体のテラスなどがあり公園とつなげて利用できることが求められていた。

4. 発表会

(1) 発表会の概要

平成26年(2014年)10月から11月中旬にかけて市民と共に実施してきたワークショップの成果を広く発表することを目的に、平成27年(2015年)1月14日に発表会を実施した。概要は以下の通りである。

日時	平成26年(2014年)1月14日(水) 18:30~20:30
会場	習志野市民会館
内容	1. 市長あいさつ 2. 習志野市公共施設再生計画と大久保地区公共施設再生事業の概要 3. ワークショップのねらいとアンケートの概要 4. 市民によるワークショップの成果発表 5. まとめと今後のスケジュール 6. ポスターセッション

発表終了後、会場外のホワイエで15分程度ポスターセッションを実施した。ポスターセッションとは、研究内容をまとめたポスター等の資料を自由に見られるように掲示し、掲示された資料を基に、参加者と意見交換や質疑応答を行う発表の形式である。

(2) 市民発表の総括

ワークショップの成果発表は、6つのチームに分かれた11名のワークショップ参加者によって行われた。①~⑤のグループについては、各施設の「イメージ(どんな場がほしいか等)」及び「具体案」についてワークショップで出た主な意見を1名が説明し、もう1名が施設のプランを元に欲しい機能・サービスについて紹介した。「⑥全体運営」に関しては、1名の市民発表者が各施設・公園の一体的な運営や大学との連携について説明した。

※市民発表資料については、別添の付録を参照。

「習志野」の地域の未来を考えるプロジェクト ~大久保地区公共施設再生~

■ 発表会 ■



ワークショップの様子

開催主旨

今年の10月から11月中旬にかけて、京成大久保駅前の中央公園と、公民館・市民会館、図書館、勤労会館で「あったらいいなと思う用途や機能」、「建物の雰囲気や使い方」、「民間事業者との連携」などについて、市民の皆様約40名と全6回にわたりワークショップを開催し検討を行いました。
今回の発表会では、ワークショップに参加された方々を中心に成果を発表し、より良い習志野の未来のために、市民の皆様と共に考えてまいります。



開催内容

- ・ 習志野市からの挨拶
- ・ ワークショップに参加した市民からの発表
- ・ 基本構想(案)の発表
- ・ ポスターセッション

※内容は一部変更される可能性があります

とき

1月14日(水)
18:30~20:30
【開場/18:15】

お申し込み不要

直接会場にお越し下さい
【定員300名】

会場

市民会館 (本大久保3丁目8番20号)
TEL: 047-476-3213

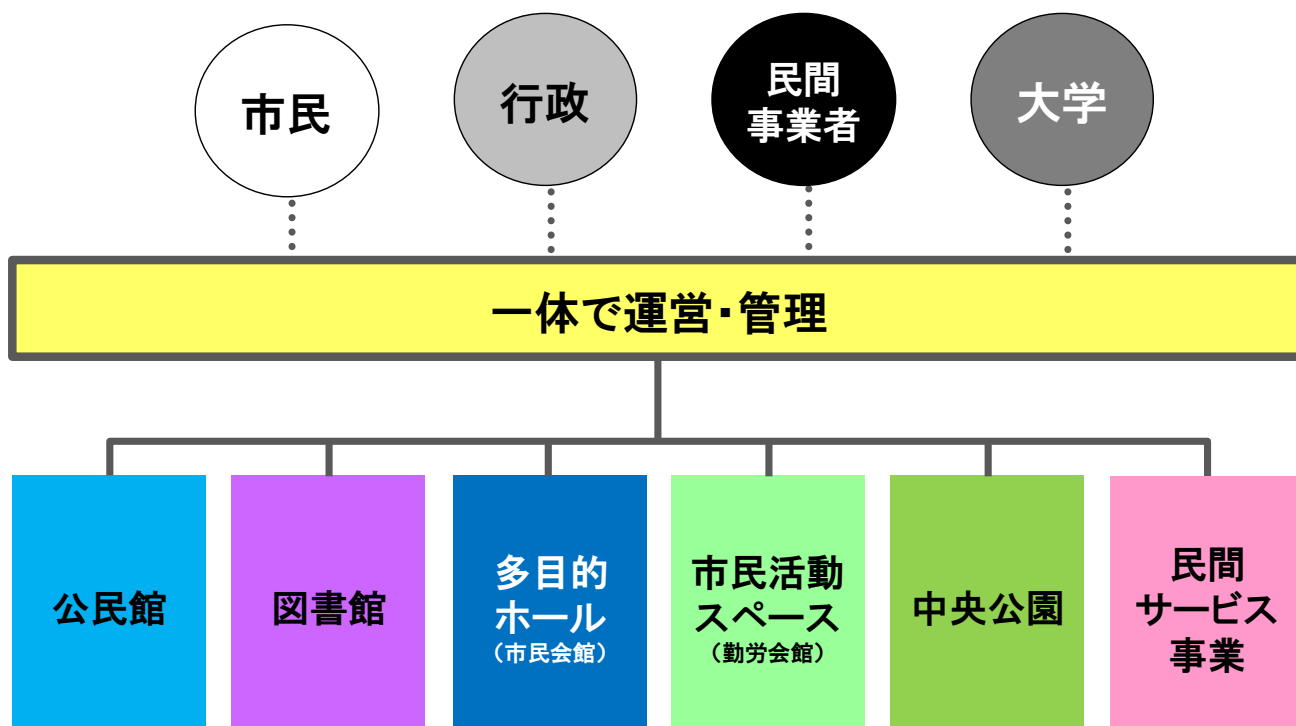
託児のご用意もございません
ご希望の方は1週間前までにお申込み下さい
【申込先】担当: UDS和田
メール: n-wada@uds-net.co.jp
TEL: 03-3372-0231



主催: 習志野市 (担当: 資産管理課 TEL 453-9308) 受託: UDS株式会社

※ご来場の際は、公共の交通機関をご利用下さい(京成大久保駅より徒歩2分ほどです)

5. まとめ



市民協働の一連のプロセスを経て、市民から「民間が得意な分野は、民間の力を活かすべき」という声が多数であった。講演会、ワークショップ、発表会と、時間をかけるにつれて、参加している市民は、「自分たちが自分たちの地域の未来を作らなければならない、作りたい。」という、主体性を高めていった。これらの「公共」を支えるのは、行政だけでなく、市民、民間事業者、大学が、それぞれの役割のもと、「公共」の利益を念頭にまちづくりを行っていく必要がある。

また、将来的に財政状況は厳しくなる中で、公共の担い手として、収益性のある民間事業と連携し、しかるべき利益をあげ、「公共」に還元することで財政負担を削減することは、市民や子・孫の世代の利益につながるという考え方が、ワークショップでも数多くあった。

これまでは「公共」の担い手は行政であるとの認識があったが、市民が率先して関わり、行政が適正にモニタリングすれば、民間事業者も「公共」の担い手となることができるという考え方である。役に立つ公共性の高い事業、お金を払ってでも欲しい有意義な事業を公共施設に取り込むことは、地域の価値を高めつつも、財政負担を削減するという相乗効果を生み出すものであるとの声が数多く聞かれた。

また、運営手法としては、中央公園と3つの建物は、それぞれ行政の所管課が縦割りに管理するのではなく、全体を一つのエリアとして一体管理をしなければならないとの意見が多数であった。

